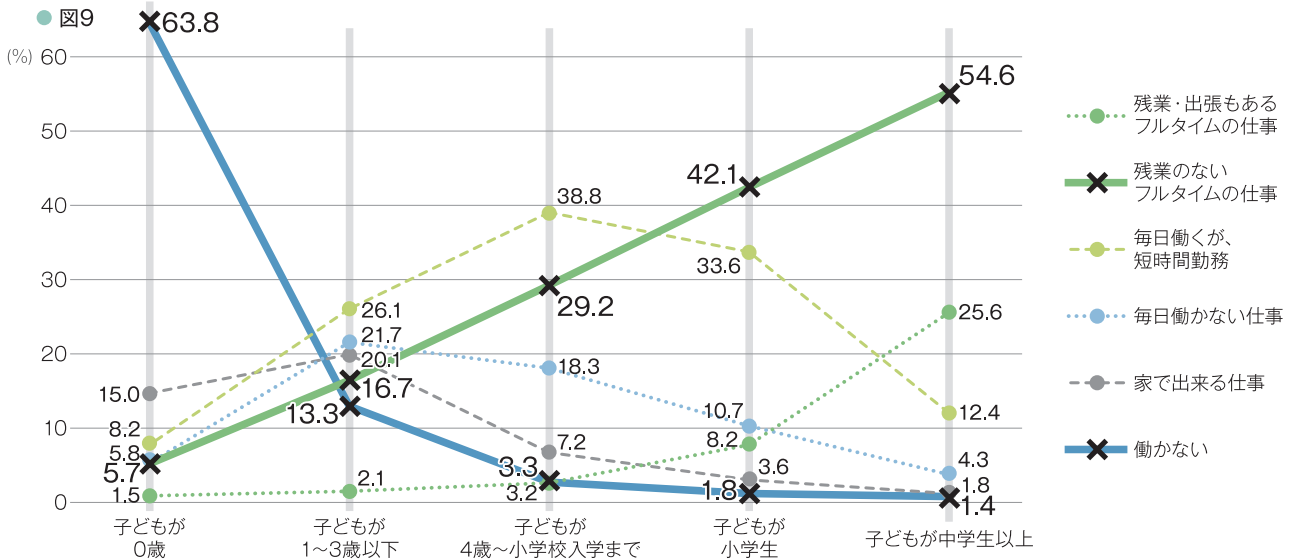


子どもが0歳の時は「働かない」を希望する母親は63.8%いる。「残業のないフルタイムの仕事」は、子どもの成長とともに選ばれる割合が上がっていく。

Q 子どもの成長段階ごとにあなたが希望する働き方について、各段階で最もあてはまるものをひとつ選んでください。



子どもの成長段階ごとに希望する働き方について尋ねた。年齢別にみると、子どもが0歳の時は、「働かない」ことを希望する人が63.8%と6割を超える。子どもが1~3歳では、「毎日働くが短時間勤務」(26.1%)、「毎日働かない仕事」(21.7%)、「家で出来る仕事」(20.1%)への希望が多い。4歳~小学校入学前になると「毎日働くが短時間勤務」という働き方が38.8%で最も多い。「残業のないフルタイムの仕事」を希望する割合は、子どもの成長とともに割合が上がっていき、子どもが小学生の時では42.1%、子どもが中学生以上では54.6%と半数を超える。「残業・出張もあるフルタイムの仕事」は、子どもが中学生以上の母親では、

25.6%と4人に1人が希望している。子どもが小さいうちは、育児を優先して働く時間をセーブし、子どもの成長とともに、仕事の割合を増やしていきたいという母親たちの希望がうかがわれる。

しかし、本調査で、未就学児を預けて働いている母親は、子どものすべての年齢において、週に5日間、保育サービスに子どもを預けている割合が多く、全体では82.4%であった。また、1日に子どもを預けている時間は、平均8時間38分である。本調査の対象は首都圏在住の母親なので、職場までの通勤時間がある程度加味しても、毎日、フルタイムに近い勤務体制で働く母親像が浮かび上がってくる。

調査全体をふりかえって

本調査は、首都圏の認可保育園に入園申請をした母親を対象として、4月時点での預け先の実態などを調べたものである。インターネットでの調査に回答した人が母集団となっているため、各自治体の対象世帯を正確に代表したものとはなっていないが、認可保育園に入園を希望した母親が、入園の有無によって自身の生活や子どもの保育をどうしたかなどを720人の声からみることができる。2009年4月時点での認可保育園への入園は、47.2%と半数を割り、約4割は預け先が決まらなかった。預け先が決まらなかった母親は、その56.1%が仕事、または再就職を

やめた。首都圏では、預けたい時から、通える場所に、預け先を見つけることが困難になっているといえる。よって、回答者は、子育て支援として「保育所を増設し、待機児童の解消」を重要な課題にあげている。

また、母親の働き方については、子どもの成長に応じて、短時間勤務から残業のないフルタイムの働き方を希望する割合が上がっている。待機児童の解消とともに、子どもをもつ女性が、育児か仕事の二者択一を迫られるのではなく、子どもの成長段階に合わせて育児と仕事を両立できる制度や風土がさらに普及していくことが望まれている。